

「質の良い『問い』に出会える人生は、豊かな人生である」と言われています。問いを与えられるということは、それについて考え、結論を導き出すという思考活動を始めるきっかけになります。つまり質の良い問いは、質の高い思考活動の源になるのです。

皆さんはこのiP-Uで、どんな問いに出会ったのでしょうか。難しい問い、これまでに考えたこともないような問いもあったのではないのでしょうか。「デザイン力実践」で皆さんが頭を抱えながらも真剣に考える姿は、とてもかっこよかったです。それらの問いが、みなさんの人生を豊かにするきっかけになっていれればいいです。

ここでiP-Uを修了する皆さん、また才能育成コースに進まれるみなさんに、私からお願いがあります。質の良い問いを、自ら創り出せる人を目指して欲しいと思います。そしてその問いに向き合い、解決しようとする姿勢を持続して欲しいと思います。皆さんのこれからのご活躍を、心から応援しています。



iP-U を修了して

才能育成プラン修了生 和泉瑠菜

iP-U で過ごしたこの2年間で、私は高校生活だけでは経験し得ない数多くのことを学び、多くの人と出会い、自らの見聞を広めることができました。

1年目の基盤プランでは、必修科目に加え興味を持った理工系の講座を幅広く受講しました。外国人講師との英会話（Ec Lab）は、定期的に受講することで語学力向上につながりました。特に、高い目標を持った受講生同士のディスカッションは良い刺激になり、モチベーションが向上し目標に大きく前進できたと思います。また、国際科学オリンピックへの挑戦は勉学に対する姿勢を変えてくれました。

2年目は才能育成プランに進み、農学部の煉谷先生のご指導の下、8ヶ月間植物ウイルスの研究を行ってきました。バラを育てている祖母から、薔薇癌腫という土の中の菌が原因で起こる病気のことを聞いたことがあり、以前から植物の感染病に興味があり参加しました。実際にインドネシアに行きウイルス病に感染している植物の葉を採取し、帰国後は研究室でゲノム（塩基配列）の決定を行いました。そして、渡航先の大学では、英語でスピーチする機会をいただき、またそこで出会った学生とは現在もSNSで連絡を取り合い英語学習に励んでいます。学校の勉強や課外活動との両立等で不安に感じることも多々ありましたが、コーチングの稲垣先生による進路や学校生活についてのアドバイスは私の支えになりました。

この2年間、私が意識していたことは「Plan、Do、Check、Act」からなる「PDCAサイクル」です。学業や部活動、iP-Uでの研究を両立するにあたり、計画を実行に移し成功しても失敗しても必ず評価を行い、改善につなげていました。このサイクルを繰り返すことで作業が効率化し、充実した日々を送ることができました。

開講式に参加した時には、iP-Uでこれほど多くのことを体験し吸収できるとは思ってもいませんでした。多くの受講生と共に学んだ経験は、私を大きく成長させました。今後も、iP-Uでの経験を生かし躍進することを約束します。ご尽力くださいました宇都宮大学の先生方、事務局の皆様方、ならびに高校の諸先生方や家族など全ての方に対して、この場をお借りしてお礼申し上げます。最後に、宇都宮大学グローバルサイエンスキャンパスの益々のご発展をお祈り申し上げ、受講生を代表してお礼の言葉といたします。